郷土史への扉

失われかけた文化財

鹿で有名な奈良市の奈良公園に室町時代に建てられた国宝の「興福寺五重塔」が建っています。日本で二番目に高いこの五重塔は明治初年の「廃仏毀釈」によって取り壊されそうになりました。

一八六八（明治元）年三月に政府は「神仏分離令」を出しました。この法律が出る前までは、神と仏は本来同じものであると考える「神仏習合」という思想が広まっていて、神主さんがお経をあげたり、お坊さんが祝詞をあげたりすることがあったようです。霧島市内では鹿児島神宮と弥勒院（宮内小学校の場所にあった寺）がよく知られています。このような例は日本全国にたくさん存在しました。

興福寺はもともと藤原氏の氏寺で、氏神を祭る春日大社とともにとても手厚く保護され、寺院としては日本最大規模を誇り、平安時代末期から鎌倉時代にかけては、僧兵という集団を組織し、延暦寺の僧兵とともに朝廷に圧力をかけ、政治に大きな影響を与えていました。しかし今では、奈良公園の一部のようになっています。なぜ興福寺はこのようになってしまったのでしょう。

この理由は、「廃仏毀釈」の影響です。「神仏分離令」は「神仏習合」の思想を改めて、神道を国の宗教にしようとして出された法律でした。しかし、当時の人々は仏教に関するものはすべて排除しなければならないと早とちりしてしまいました。

興福寺では、お坊さんたちは春日大社などの神主になり、お寺から出て行きました。誰もいなくなったお寺の建物は取り壊されました。仏像は壊されたり、売られたりしました。五重塔は、はじめ五十円（現在の約四十万円）ほどで売り飛ばされ、買主が火をつけて金具だけ取り出そうとしましたが、火事を恐れた周辺の住民に反対されました。二十五円で売られたときは塔の材木が薪にされそうになりました。こちらもなんとか取りやめになり原形を止めたのです。

薩摩藩では更に徹底的に廃仏毀釈が行われました。お寺は全てなくなり、財産は没収され、お坊さんもいなくなりました。こうして鹿児島県の仏教に関する文化財はほとんど失われてしまったのです。

霧島市内にも多くのお寺がありました。市内でも石造の仁王像などの仏像を何気なく見かけると思います。よく見てください。首がないもの、腕がないもの、あってもあとからつないであるもの。きれいに残っているものはほとんどありません。仏教に関するものは徹底的に壊されたのです。市内のお寺の跡は「本当にここにお寺があったのかな？」と思ってしまうような所ばかりです。お寺の全容を知るには発掘調査が重要な役割を担っています。

興福寺の南にある元興寺はとても小規模ですが、「廃仏毀釈」の影響をあまり受けませんでした。奈良時代の瓦がそのまま使われている部分があるとても古い建物が残っているのです。

なぜ残ったかというと、地元の人たちが、元興寺を本当に大事にしていたからです。他のお寺が壊されても、その対象にはなりませんでした。

どんなに栄えても、みんなが大事にしようと思わなければ何事もすぐに失われてしまいます。明治の人々が多くの文化財を破壊してしまったがために私たちは、古い文化に触れられることが限られてしまいました。限られた文化財を保護するには私たちが文化財についてもっと理解し、大事にしようとする心を持つことが大切です。

文責＝坂

霧島市文化財ガイドブック発売中！

霧島市教育委員会では、市内の指定文化財、登録文化財全118件を掲載した文化財ガイドブックを作成しました。写真付き、オールカラーで、皆さんご存知の有名な文化財はもちろん、「こんなところもあったんだ！」という驚きがつまった1冊になっています。

・販売価格＝300円
・ページ数＝126ページ　・サイズ＝A5版
・販売場所＝教育委員会文化振興課および各出張所教育振興課、生涯学習課、国分郷土館、横川郷土館、霧島歴史民俗資料館、隼人歴史民俗資料館、隼人塚史跡館

◎**問い合わせ先**＝文化振興課文化財係 ☎(64)0990